



本ドキュメントはCypress (サイプレス) 製品に関する情報が記載されております。本ドキュメントには、仕様の開発元企業として「スパンション」, 「Spansion」, 「富士通」または「Fujitsu」の名が記載されておりますが、これらの製品は Cypress が新規および既存のお客様に引き続き提供してまいります。

#### 商品仕様の継続性について

Cypress 製品として提供することに伴う商品仕様としての変更はなく、ドキュメントとしての変更もありません。また本ページのお知らせは、変更情報として追記いたしません。本ドキュメントに変更情報が記載されている場合、それは本お知らせを除いた前版からの変更点です。なお、今後改訂は必要に応じて行われますが、その際の変更内容は改訂後のドキュメントに記載いたします。

#### オーダ型格および品名について

Cypress は既存のオーダ型格および品名を引き続きサポートいたします。これらの製品をご注文の際は、このドキュメントに記載されているオーダ型格および品名をご使用ください。

#### 詳しいお問い合わせ先

Cypress 製品およびそのソリューションの詳細につきましては、お近くの営業所へお問い合わせください。

#### サイプレスについて

サイプレス (銘柄コード: CY) は、車載や産業機器、ネットワーキング プラットフォームから高機能民生機器およびモバイル機器まで、今日の最先端組み込みシステム向けに高性能で高品質のソリューションを提供します。NOR フラッシュ メモリや F-RAM<sup>TM</sup>、SRAM、Traveo<sup>TM</sup> マイクロコントローラー、業界唯一の PSoC<sup>®</sup> プログラマブル システムオンチップ ソリューション、アナログおよび PMIC Power Management IC、CapSense<sup>®</sup> 静電容量タッチセンシング コントローラー、Wireless BLE Bluetooth<sup>®</sup> Low-Energy、USB コネクティビティ ソリューションなど、幅広い差別化製品ポートフォリオを、一貫した革新性と業界最高クラスの技術サポート、比類のないシステム バリューとともにグローバルに提供します。

正誤表

MB90480/485 Series ハードウェアマニュアル 第7版(CM44-10121-7)に対する正誤表です。

F<sup>2</sup>MC-16LX  
16ビット・マイクロコントローラ  
MB90480/485 Series  
ハードウェアマニュアル

2009. 1. 9

※ : 訂正箇所

ページ	項目	訂正内容																								
485	24. 1	<p>「24. 1-1 使用する端子の機能」を、以下の※で示すように訂正。</p> <p>(誤)</p> <table><tr><th>端子</th><th>機能</th><th>補足説明</th></tr><tr><td>MD2, MD1, MD0</td><td>モード端子</td><td>MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。</td></tr><tr><td>X0, X1</td><td>発振用端子</td><td>シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4.5 MHz ～ 25 MHzとなります。</td></tr><tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr></table> <p>(正)</p> <table><tr><th>端子</th><th>機能</th><th>補足説明</th></tr><tr><td>MD2, MD1, MD0</td><td>モード端子</td><td>MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。</td></tr><tr><td>X0, X1</td><td>発振用端子</td><td>シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4 MHz ※ ～ 25 MHzとなります。</td></tr><tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr></table> <p>[mcu_doc0743]</p>	端子	機能	補足説明	MD2, MD1, MD0	モード端子	MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。	X0, X1	発振用端子	シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4.5 MHz ～ 25 MHzとなります。	⋮	⋮	⋮	端子	機能	補足説明	MD2, MD1, MD0	モード端子	MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。	X0, X1	発振用端子	シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4 MHz ※ ～ 25 MHzとなります。	⋮	⋮	⋮
端子	機能	補足説明																								
MD2, MD1, MD0	モード端子	MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。																								
X0, X1	発振用端子	シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4.5 MHz ～ 25 MHzとなります。																								
⋮	⋮	⋮																								
端子	機能	補足説明																								
MD2, MD1, MD0	モード端子	MD2=1, MD1=1, MD0=0 に設定することで、シリアル書込みモードになります。																								
X0, X1	発振用端子	シリアル書込みモード時に、CPU 内部動作クロックは PLL クロック1 通倍となりますので、内部動作クロック周波数は発振クロック周波数と同じになります。したがって、シリアル書込みを行う場合、高速発振入力端子に入力可能な周波数は4 MHz ※ ～ 25 MHzとなります。																								
⋮	⋮	⋮																								
625	付録 D	<p>「表 D. 9-20 XCH Ri, ea命令 (第1バイト=7EH)」を変更</p> <p>(誤)</p> <p>項目「A」</p> <p>+Aの行 「W2+d16, A」</p> <p>(正)</p> <p>項目「A0」</p> <p>+Aの行 「@RW2+d16」</p>																								